

クスノキ通信

新書記長に大平文俊氏を選出

第二八回県本部大会を開催

組合員拡大を最重点に組織の強化を

建交労広島県本部は、一〇月一〇日(土)の午後一時より、広島市中区の「広島市民交流プラザ」で、第二八回定期大会を開催しました。代議員・傍聴者と執行部合わせて、一七人が参加しました。

山田委員長の挨拶のあと、武田喜成書記次長より中央本部からのメッセージが読み上げられ、大平書記長代行より広島県労連と建交労各都道府県本部からのメッセージが紹介されました。

山田委員長が経過報告、秋季年末闘争と二〇二七年春闘の準備、会計報告のあと会計監査報告が行われ、新年度の予算案の提案が行われました。討論では、労職支部、ダンプ支部、尾道支部、三原支部、鉄道支部などから七人が発言しました。



写真の上から、「団結がんばろー」で意思統一、下は三原支部の事業団の取り組みを報告する藤井康子委員長、資格審査委員も引き受けてもらいました。

(10月10日)

全日本建設交通一般労働組合広島県本部
〒七三〇〇八五三
広島市中区堺町二丁目二九一三〇三
TEL (〇八二) 二三五一三〇五〇
FAX (〇八二) 二三五一三〇五二
e-mail
ctg303.hiroshima@orange.plala.or.jp

労職支部の大平書記長は、今年の七月に十九カ月かかってじん肺の認定を実現したことなどを報告、ダンプ支部の武田事務局長は、NPL ニューヨーク行動に参加しての教訓や自家用ダンプの適法性の問題について組合取り組みなどについて報告しました。尾道支部の

宮本委員長は、事業団の仕事が他の事業者に取りられて厳しい状況になっているが引き続き役者にも働きかけ、仕事確保に頑張ると発言。三原支部の藤井委員長は、今年も要請行動を行い、事業団の仕事を獲得した事、市役所が最低賃金引き上げに合わせて契約する様になったことなど積み重ねてきた組合運動の成果を報告しました。

厳しい中でも頑張る決意

大平書記長代行は「厳しい中で大会だったが、暗い話ばかりではなく、頑張る決意が語られ明るい大会だった。県本部の



選出された広島県本部新役員の皆さん(10月10日)

書記長に大平氏を選出

役割の重要なことを再確認できた」とまとめました。執行部からの経過報告や運動方針の提案や会計監査報告、予算案などを全会一致で採択し、新しい役員を選出しました。

主な県本部新役員は以下のとおり。

- 委員長 山田昭夫(再)
- 副委員長 三井 昇(再)
- 同 兼田美恵子(再)
- 書記長 大平文俊(新)
- 中央委員 山田昭夫(再)

二〇二七年一月二四日(水)〜二三日(木)に日本高齢者大会が、広島市で開催されることになりました。

メイン会場は広島市中区の「アステールプラザホール」です。

徒然草

「トランプ大統領は、自らがノーベル平和賞を受賞すべきだったと不満を爆発させている」との新聞記事にあきれるばかり。今年のノーベル平和賞の受賞は、戦争犯罪を犯した個人を裁く国際刑事裁判所(ICC・本部はオランダ・ハーグ)で、判事などを歴任したナビ・ブレイ氏に決定したとノーベル賞委員会が発表した、その6時間後には「ICC本体を制裁対象にする」と、米政府が発表した◆ノーベル平和賞の受賞理由では、恒久的な平和は強者の医師や不安定な力の均衡の上ではなく法律の原則の上に築かれなければならない」と国際法の重要性を強調した◆赤根智子ICC所長の著作「戦争犯罪と闘うー国際刑事裁判所は屈しない」を読んだ。ICCとは何か。二〇〇二年に設立され国際条約「ローマ規程」にある4つの中核的犯罪を犯した個人を処罰するもの。メンバー国はローマ規程に入った締約国。4つの中核的犯罪とは、①ジェノサイド(集団殺人)②人道に反する犯罪③戦争犯罪④侵略犯罪◆現在の日本には、中核的犯罪全般に対する処罰規定を持つ法律がない。だから、ウクライナの状態が発生した際、日本は、捜査協力の点では何もできなかった。現状のままでは、出来ることは資金や物資などの後方支援、戦争終了後の復興支援、だけ。日本はまだ、ホロコーストを契機として結ばれたジェノサイド条約への加入をしていない。ICCは、戦争の惨禍に苦しむ世界中の被害者の希望の明かりである。(S)

じん肺・アスベスト被災者の救済対策を 三七回じん肺キャラバン広島行動で要請

なくせじん肺・アスベスト被害、全ての労災職業病の根絶を！キャラバン要請行動。今年は第三七回目となりましたが、広島では、一〇月二二日(木)の午前中、広島労働局と広島県庁に要請行動を行いました。

広島労災職業病支部の太平書記長はじめ県本部の山田委員長とダンブ支部の岩男副議長、県本部特別執行委員の吉岡芳樹の四人が参加しました。

労働局での要請では監督課や労災補償課など各担当課から4名が出席し、雇用環境・均等室の松村室長補佐が進行しました。

今年是要請項目に追加したじん肺の労災申請における「確定診断」について特に時間を割いて話し合いました。確定診断とは患者が診てもらい診断書を作成してもらった医師と局医(労働局の労災委員)の知見が異なる場合、中央の確定診断委員会にその判断を委ねる必要がある



広島県の商工労働局雇用労働政策課の平野恵子参事に要請書を渡す山田昭夫委員長 (10 月 22 日・広島県庁にて)

というもので、厚労省の通達の基補発10009第2号「迅速処理に向けた進行管理」を著しく妨げている原因になっています。

迅速な認定、懇切丁寧な対応するよう指導します (労働局)

太平書記長が、労働局の労災委員(局医)の判断が間違っていて6か月以上も認定が遅れた広島での事案について現状を訴え厳しく追及、「ペナルティを課すなりスキルアップのための研修を実施するなり労働局も対応をしてほしい」と発言、これについて労災補償課管理調整官の加納氏は「労災委員については参考にさせていただき、署に対しては迅速な認定、懇切丁寧な対応の定着を求めて続けて指導をしていく」と回答しました。

要請内容重く受け止めます (広島県)

広島県庁では、雇用労働政策課の平野恵子参事に要請書を提出しました。災害時の自治体や行政の対応とボランティアに携わる人間の安全についての意見交換を行いました。

アスベスト建材を使用した公共建物について、改修工事や解体のときに限らず情報開示すべきだとの発言に、「過去に公表したことがあるかどうかも含め、それについては認識がない」との答えでした。HPに載っている病院のリストも古い情報が多い、ネットに馴染みが薄い高齢者に寄り添った対応してほしいと訴え、要請内容については「重く受け止め検討する」と答えていました。



中国市長会の伊達憲太郎会長に要請書を手交する山室まこと議長 (10 月 6 日境港市役所にて)

働かなくては生活できない 高齢者の雇用の問題、引きこもり対策、平和の問題などで市長会に要請

建交労中国地協(山室まこと議長)は、一〇月六日(火)中国市長会秋季役員会が鳥取県境港市で開催されたのに合わせて、要請行動を行いました。広島、島根、山口の各県本部から五人が参加しました。市長会側からは、伊達憲太郎会長(境港市長)らが参加。

昨年の中国市長会への要請(毎年春と秋に要請)でも、政府・防衛省の計画に対して「失業と貧困と戦争に反対」する労働組合として反対であり「三〇年以内に南海トラフ地震発生は七〇%の確率と言われている、跡地は防災拠点とすること」を要請しています。

今後の組合行動日程など

- 一〇・二四 ダンブ支部第38回定期大会
- 一一・三 県民大運動集会(一一時) 憲法集会(午後二時・弁護士会館ホール)
- 一一・五 三原支部月例会
- 一一・五 建交労中央行動
- 一一・一四 国民救援会総会(ロードビル)
- 一一・一七 大運動自治体キャラバン
- 一一・一九 建交労中国地協組織対策会議
- 一一・二二 建交労中央春闘討論集会(二三・三日・伊豆長岡)
- 一一・二三 勤労感謝の日
- 一一・二八 ダンブ支部合同役員会
- 一二・一 二〇二六広島争議総行動
- 一二・八 広島労職支部定期大会
- 二〇二七年
- 一・七 広島県労連・ヒロシマ労連 2027年合同旗開き
- 一・二三 広島県労連評議員会
- 一・三〇 建交労中央委員会(三一日)

お知らせ

※県本部の「クスノキ通信」は毎月一回発行しています。各支部や職場でのホットな話題や取り組みなど、身近な話題を、「メール」やファクスでお寄せください。メールとファクスは以下の通りです。お待ちしております。

ctg303.hiroshima@orange.plala.or.jp
Fax 〇八二一二三五―三〇五二